

令和6年度第8回狛江市立公民館運営審議会会議録

- 1 日 時 令和6年12月23日(月)午後6時30分～8時
- 2 場 所 西河原公民館 学習室3
- 3 出席者 斎藤謙一委員長、天野泰子委員、伊勢亀慎司委員、伊東達夫委員、内海貴美委員、設楽知委員
事務局(瀧川直樹公民館長、高橋公平事業係長、中川秀太郎主事)
- 4 欠席者 都築完副委員長、細谷明美委員、長岡智寿子委員
- 5 傍聴者 0名
- 6 資 料 資料1 令和6年度公民館事業評価シート 成人学習事業
資料2 令和6年度公民館事業評価シート 公民館交流事業
資料3 令和5年度いべんと西河原・中央公民館のつどい チラシ
資料4 令和5年度公民館活動の記録 公民館交流事業
資料5 令和5年度中央公民館のつどい アンケート(抜粋)
資料6 令和5年度いべんと西河原・中央公民館のつどい合同アンケートまとめ
資料7 令和6年度第7回公民館運営審議会会議録
その他 第61回東京都公民館研究大会開催要領
その他 第61回東京都公民館研究大会チラシ

7 議 題

(1) 開会

(2) 報告事項

①公民館事業評価(成人学習について)

資料1に基づいて事務局より説明

②第61回東京都公民館研究大会について

その他資料に基づいて事務局より説明

③令和6年度いべんと西河原について

事務局:今年度は3月1～2日、8～9日の4日間でいべんと西河原を実施する。

(2) 審議事項

①公民館事業評価(公民館交流事業)について

資料 2～6 に基づいて事務局より説明

委員長：西河原公民館でもキッチンカーの出店は行われたのか。

事務局：中央公民館のみである。

委員：発表の計画はどのくらいの期間をかけて行うものか。

事務局：昨年は 12 月中に出演する順番を決め、各団体に実施計画書の提出を依頼した。提出された計画書を基に、プロの音響、照明技師に演出をしてもらうという流れである。期間としては 5 か月程度である。

委員：各団体への意向調査なども含めると、秋ごろから準備が必要になると思うが、事務局としてこの期間についてどう考えているか。

事務局：「いべんと西河原」は公民館の下半期最大の事業と考えており、10 月頃からは 1～2 人程度担当の職員を配置して準備を行っている。期間としては、最低 5 か月は必要であると考えます。

委員：発表順について、参加者の意見は反映されるのか。

事務局：事前に団体ごとに希望日を聞き、事務局で案を作成した後、実行委員会で調整している。

委員長：基本的には実行委員会が決定をし、事務局は助言をしているということか。

事務局：実行委員会事業という形で実施する事業であるため、事務局は基本的にはサポートを行っている。

委員長：新型コロナウイルス流行をきっかけに、いべんと西河原と中央公民館のつどいを合同で開催することになったが、合同で行うようになって変化はあったか。

事務局：令和 4 年度からは西河原公民館で発表を、中央公民館では展示を行うようになった。以前までは発表を見たついでに展示を見るという流れがあり、相乗効果が得られたものの、令和 4 年度は展示に訪れる人が減少したという意見が実行委員会で挙がった。この指摘を受けて、令和 5 年度には展示にも人を呼び込むため、体験型の展示を基本とし、キッチンカーや福祉作業所による販売を行ったことで、来場者を増加させることができた。

委員長：公民館に来たことがない人へのアピールにもなったと考えられる。

委員：昨年このイベントを知り、足を運んだところ、年配の方が多くいる印象を受けた。しかし、資料 5 のアンケートを見ると 20 代、30 代の回答者も意外に多いと感じた。赤

ちゃん広場やキッチンカーのような催しは子育て世代を呼び込むきっかけになり、良い結果が出ているのではないか。

事務局：今年度は中央公民館が改修中のため、いべんと西河原のみの開催となるが、西河原公民館周辺には飲食店が少ないため、キッチンカーの出店ができないか検討しているところである。

委員長：「市民まつり」で公民館利用団体の子ども食堂が出店をしていたと記憶している。このような団体に依頼することは考えていないのか。

事務局：いべんと西河原と中央公民館のつどいは参加希望団体を募って行うものであり、子ども食堂や料理を主として活動している団体から参加希望がなかったため、キッチンカーに協力を依頼した。夏に実施している夏休み子ども中高生スペースでは子ども食堂に依頼をして昼食を提供していただいている。

委員長：アンケートの中に「広報こまえ」に載せてほしかったという意見があるが、「広報こまえ」に掲載しなかったのか。

事務局：掲載した。今年度は2月1日号に掲載する予定である。

委員長：評価を行う。＜企画・計画性＞がA評価となっている。多くの団体の希望を聞き、調整するというのは大変な作業であり、メールでの連絡やスケジュールの見える化により、以前よりも早く決められるようになったというのは大きな進歩であると言える。

委員：評価理由には「実行委員会の連絡をメール等で行えるようにしたことが好評であった」とあるが、今後の課題に「実行委員の担当割り振りを精査する必要があること」と、「実行委員の当事者意識を促すような工夫が必要であること」が挙げられているが、矛盾しているように感じる。

事務局：これまでは、連絡事項があるたびに全て郵送していたが、メールでの連絡を導入したことで、事務局と実行委員の双方の負担が大きく軽減されたと考えている。担当割り振りや、当事者意識の点については、実施に当たって全体の運営に目を向けられている実行委員が少なく、時間やルールに関してトラブルが起きることもあったため、課題として挙げさせていただいた。

委員長：おそらく実行委員会が主体となって実施するイベントであるということが理解できておらず、公民館主体のイベントに参加するだけだと考えている人が多いのではないか。参加者としての意識だけでなく、運営側としての意識も持ってもらう必要がある。

事務局：実行委員会に参加するのは基本的に団体の中から1名だけであるため、担当者が理解できていても、他のメンバーにうまく共有できていないという場合もある。その情報が伝わっていない人に運営側の意識を持ってほしいと言っても理解が得られないと考

えている。ただし、これまで団体に運営に関わる仕事を任せてこなかったという事実もある。仕事を依頼すると、その分事務局は管理をする必要があり、かえって負担が増えてしまうため、そのバランスの取り方に苦慮している。

委員長：〈企画・計画性〉については進歩しているということからA評価でよろしいか。

委員：昨年団体として参加した際に、プロの音響、照明技師や舞台監督のおかげもあり、気分良く発表できた。ただ残念だったのは資料6の10にあるように、控室の利用時間が短かったことである。着替えや練習も控室でやらなければならないため、十分に準備ができなかった。自分たちの前の時間が空いていたので早めに行ったが、既定の時間より前には入れないということで利用できなかったのも、それが残念であった。

事務局：事務局としては控室の数に限りがある中で各団体が平等に利用できるように調整している。今年度は展示も西河原公民館で行うため、時間の制限についてはご理解いただきたい。

委員長：控室に関しては特に今年度については課題になっているということだが、〈企画・計画性〉はA評価でよろしいか。

委員一同：異議なし。

委員長：〈周知〉についてはいかがか。

委員：資料3のいべんと西河原のチラシを見たときに、一目見て何をしているのかが分からなかった。知っている団体が1つしかなく、それ以外の団体に関してはどのような発表をするのかも分からないため、行こうという気が起きない。紙面の都合上難しいかもしれないが、それぞれの団体がどのようなジャンルで発表を行うのかも記載しておくべきである。

事務局：今年度のチラシを作る際に参考にさせていただく。

委員長：周知自体はできており、昨年度は学校に配るなど新たな取り組みも行い、進歩が見られたためA評価でよろしいか。

委員一同：異議なし。

委員長：〈実施・運営〉については実施要領の徹底ができず、調整が必要な場面があったということで、事業自体は成功したものの改善すべき点が多々あったということである。実行委員会に参加していない人に情報を伝達するのは難しいと思うが、円滑な運営のため理解を得る工夫は必要である。このような点を踏まえてB評価でよろしいか。

委員一同：異議なし。

委員長：＜満足度＞については、アンケートを見る限り好意的な意見が多いように感じるが、なぜB評価になっているのか。

事務局：資料5は中央公民館のつどいのみアンケートとなっている。いべんと西河原では来場者のアンケートを取れておらず、満足度が量りきれないためB評価とした。

委員長：アンケートが取れていないということは、いべんと西河原の来場者数も把握できていないということか。

事務局：職員が観客席の後ろから目視で数えており、おおよその人数は把握できている。

委員長：アンケートを取らなかったのはなぜか。

事務局：通常の事業ではホールの出入口付近にアンケート記載台を設けているが、いべんと西河原では人の入れ替わりが激しく、アンケートを実施することができなかった。今年度はアンケートを電子化し、二次元コードを用紙にして配付する等の対応を検討している。

委員長：二次元コードがあっても読み込んでアンケートに答える人は多くないと考える。ロビー付近に模造紙を貼り、シールを貼ってもらうような簡易的な満足度調査であれば協力してくれる人もいるのではないか。

事務局：実施を検討する。

委員長：＜満足度＞は完全なデータが取れていないということも考慮し、B評価でよろしいか。

委員一同：異議なし。

委員長：＜達成度＞の評価理由の5,300人という数字は目視で数えたものも含まれているということか。

事務局：その通りである。

委員：令和4年度のデータはないのか。

事務局：令和4年度は統計が取れていない。

委員：前年比で500人程度増加していると良い。

事務局：発表については例年通りと感じたが、展示についてはかなり来場者が多かった印象を受けた。500人程度は増えているのではないか。

委員：人数目標はあるのか。

事務局：明確には定めていないが、参加者がやって良かったと思える程度の人数は最低限来てほしいと考えている。

委員長：200人定員の多目的ホールであれば、半分程度埋まると良いのではないかと。

事務局：半分埋まっていれば、かなり人がいるという印象を受ける。

委員：この項目は人数だけに着目するのではなく、目的が達成できたかという視点も必要である。評価シートに挙げられている目的としては、文化交流の拠点となる公民館を活性化することとある。実際に参加された委員はどのように感じたか。

委員：自分たちの団体の発表は観客が少なかった。ただ、日々練習していく中で、このイベントのステージに立つということが1つの目標になっている。いべんと西河原に向けて選曲をして練習をする。他の団体もいべんと西河原を目標に1年間練習をする団体は多いと考える。

委員：大きな達成感があるということか。

委員：何の目標もなくただ練習するよりも、イベントという目標があるだけで日々の練習に気合が入るため、終わった後には達成感が得られた。

委員：委員の話を書く限り事業目的は達成できているように感じる。

委員：中央公民館のつどいの各展示に訪れた人数は把握しているのか。

事務局：中央公民館のつどいでは、アンケートを基に来場者を把握しているため、団体ごとの来場者については公民館としては統計を取っていない。

委員：昨年は体験型の展示を主として行ったと言っていたが、参加型のものと展示だけのものが分かるようにチラシを工夫した方が良い。

委員長：＜達成度＞の評価としてはAでよろしいか。

委員一同：異議なし。

委員長：今後の課題として、まず実行委員の担当の割り振りについては、団体に運営側としての意識を持ってもらうために、仕事の割り振りや伝え方を工夫する必要がある。

委員：実行委員会に参加している人でも運営側の意識が持っていない人はいるのか。

委員長：実行委員という意識よりも、実行委員会に出席しないと参加できないという意識の人も多いのではないかと。

事務局：実行委員会との契約上は、「いべんと西河原の企画、運営、実施等の全てを実行委員会が担うこと」になっているが、実際には事務局が動いている部分も多く、バランスの取り方に苦慮している。

委員長：いべんと西河原に参加するために委員会に参加するだけでなく、団体として運営に協力しなければならないという意識付けができるが良い。

委員：参加団体の中でかかった費用は全て団体の持ち出しなのか。

事務局：基本的に団体の中でかかる消耗品などの費用は団体の活動費で賄ってもらっている。公民館は基本的にチラシの作成、印刷とプロの音響、照明技師の委託費用を負担している。

委員長：どうしても参加者の意識が変わらないようであれば、受付などの業務を外部に委託し、その分の費用を団体に負担してもらっても良いのではないか。メンバーが少ない団体では運営の仕事に人を割く余裕がないことも考えられる。現状、参加団体に依頼している仕事はどのようなものがあるのか。

事務局：令和5年度はイベントの装飾を事前準備の段階で依頼している。令和5年度には団体の発表中に仕事を依頼することはなかった。

委員長：では参加者が主体となって実施する事業であるという意識を高めてもらうことが課題となる。

委員：先ほどまで来場者へのアンケートに主眼を置いていたが、参加者からもアンケートを取るべきではないか。

事務局：資料6が参加団体からのアンケートである。イベント終了後に行う振り返り会に参加した担当者にアンケートを実施している。

委員長：イベント終了後だと、来ない団体も多いのではないか。出演、出展が終わった直後にアンケートを取った方が、生の声が聞けて良い。

事務局：今年度の実施を検討する。

委員長：公民館交流事業という事業名になっているが、利用者同士の交流の機会はあるのか。

事務局：展示の団体は交流があるという印象があるが、発表の団体はあまり交流を持っている印象はない。

委員長：スケジュールが過密であり、交流をしている余裕がないのではないか。

事務局：今年度は実行委員会でも、出演時間の前後の団体と顔合わせの時間を設けることを検討

している。交流という面だけでなく、直接顔を合わせることで時間やルールを守るように意識づけられるという面も考えられる。

委員：資料6の15で「他団体とのジョイント公演をした」とあるが、どの団体のことか。

事務局：「きんたの会」と「Switch!」という団体が合同で発表を行っていた。

委員：団体からの要望があってコラボが行われたのか。

事務局：双方の団体に所属しているメンバーがおり、その繋がりから共同で実施するようになったと記憶している。両団体とも太鼓の団体であるが、ジャンルが全く違う団体同士のコラボが実現すると理想的である。ただし、練習や日程のことを考慮すると難しいと考えている。

委員：いべんと西河原でなくとも公民館としてコラボレーション企画を立て、団体を募って実施することもできるのではないか。

委員長：どのような形であれ、団体同士の交流について今後の実施を期待したい。

公民館交流事業の評価については委員の合議により以下のとおりとなる。

<企画・計画性>

公民館 A 公運審 A 全体 A

<周知>

公民館 A 公運審 A 全体 A

<実施・運営>

公民館 B 公運審 B 全体 B

<満足度>

公民館 B 公運審 B 全体 B

<達成度>

公民館 A 公運審 A 全体 A

総合評価は委員の合議により、以下のとおり

- ①参加者全員が主体となって実施する事業であるという意識を持ってもらえるよう、仕事の割り振りや運営委員会の実施方法を工夫していただきたい。
- ②アンケートの取り方を工夫し、来館者の満足度と参加者の思う課題を把握できるようにしていただきたい。
- ③団体同士の話し合いやコラボレーション企画等、公民館利用団体同士の交流ができる機会を設けていただきたい。
- ④チラシの構図や色遣い等を工夫し、一目見るだけで何が行われるのか分かるように

していただきたい。

事務局：次回の事業評価は学習グループ保育である。次回が今年度最後の審議会となる予定である。

次回開催日：令和7年1月28日（火）午後6時30分～
会 場：西河原公民館 学習室3